

- ◆理事長挨拶
- ◆2021年度委員長の意気込み
- ◆12月卒業式・忘年会報告
- ◆12月例会・1月例会
- ◆理事長企画
目指せ!!未来のオリンピア!!

～理事長挨拶～

新年おめでとうございます。平素は、公益社団法人乙訓青年会議所に格別なるご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。皆様におかれましては健やかに新しい年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

一昨年、私たちは創立40周年を迎え、昨年は、次の45周年へと向かい意気揚々とスタート致しましたが、新型コロナウイルスの影響もあり、なかなか、思うような活動ができない一年ではありました。しかし、そのような状況のもとでも、私たちは変化を受け入れ、新たな活動方法や新たな価値を模索し続け、今までとは違う新しい成果を実感することができました。なかでも二市一町の首長をはじめ、多くの地域諸団体の皆様や先輩諸兄姉の皆様には、変わらぬご理解と、私たちの運動・活動を支援頂いたことに対しまして、感謝申し上げます。

さて、私たち公益社団法人乙訓青年会議所は、「明るい豊かな社会」の実現に向けて、より良い乙訓（まち）となるよう日々運動を行っております。この乙訓（まち）は、心地よい自然に交通の利便性と、歴史遺産から育まれた高い文化性が調和したまちとして、人口も緩やかに増加し、発展を遂げてきました。しかし、将来的には、人口減少・超高齢社会の到来・加速する経済格差・多発する自然災害への不安など、この国が抱える課題に直面することが予想されております。また、2020年に世界規模で社会的・経済的、そして政治的危機を引き起こした新型コロナウイルス感染症を起因とするパンデミックは、これまでの習慣や社会常識を根本から見直すことを私たちに迫っています。今までの価値観が通用しない時代だからこそ、この困難な時期を乗り越えれば、人々は新しい考え方や生き方を実現できるのではないのでしょうか。そして、我々は、先輩諸兄姉より、この愛する乙訓（まち）の過去から未来に続く壮大な「まちづくり」という物語を託された主人公であります。たとえ今は苦しくとも自ら変化の起点となり、青年会議所の理想を胸に、時代の変化に負けない運動を展開し、乙訓（まち）からの負託と信頼を得る存在でなければなりません。変わりゆく時代のなかでも、希望をもって未来を描ける乙訓（まち）であり続けなければなりません。

本年度はスローガンに「Be the change」を掲げ、「～その行動こそが未来を変える～」をテーマに活動してまいります。「Be the change」には、不透明な社会情勢への不安と組織の危機を一人ひとりが意識を変えるチャンスとポジティブに捉え、圧倒的な主体者意識から生まれる行動力で乙訓（まち）の未来のために邁進しようとする想いが込められています。

42年目を迎える乙訓青年会議所の運動に、多くの市民、行政、地域諸団体、先輩諸兄姉の皆様の変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、本年が皆様にとりまして素晴らしい一年になることをご祈念申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

2021年度
公益社団法人乙訓青年会議所
第42代理事長 小西 光



～委員長の意気込み～



未来をつくる委員会
委員長 下戸 一晃

本年度乙訓青年会議所は、期首会員数が近年では最も少ない37人となります。未来をつくる委員会では、過去最高の入会目標人数を30人と掲げて、コロナウイルス蔓延の脅威をチャンスと捉え、新たな発想でWITHコロナを模索し、青年会議所の魅力を伝えることで、委員会の名の通り、青年会議所の未来を担う人財に一人でも多くご入会頂けるように、そのためには、委員会メンバーだけではなく乙訓青年会議所全メンバーや関係者様など多くの方の協力が必要となります。青年会議所活動に興味があられる方がおられましたら、遠慮なくおっしゃってください。ご説明にお伺いさせていただきます。

今後も地域に影響を与え続けられるように一年間取り組ませて頂きます。皆様どうぞ応援とご協力宜しくお願いします。



総務広報戦略委員会
委員長 佐伯 昌裕

本年度、総務広報戦略委員会では、委員会スローガンを「WAVE」とし、組織の中枢を担う責任と自覚をもち、一人ひとりが起こしたものが小さな行動（小さな波）でも、それが一つとなり大きな力（大きな波）へと変わることを示し、乙訓青年会議所の変化を牽引する委員会となるように委員会メンバー全員で取り組んでいきます。また、社会情勢が不安定ではありますが、各委員会の支えをし、より良い事業の構築につながるように精一杯に責務を果たしていきます。そして、広報におきましても、乙訓青年会議所の魅力や事業活動を一人でも多くの方に知って頂けるように、様々な手法を用いて発信していくことで、信頼や共感につなげていきたいと考えております。一年間、どうぞよろしくお願い致します。



組織イノベーション委員会
委員長 中野 翔太

2021年度組織イノベーション委員会は「流動性を高めよう」をテーマに一年間活動してまいります。時代の変化に対応し、リスクや失敗を恐れず、多様な人財や価値観を認め、JC活動だけでなく社業やプライベートにおいても新しいことにチャレンジして頂きたいと思っております。委員長としてまず、メンバーへの感謝の気持ちを忘れず、一人ひとりの成長を第一に考え、楽しく学びの機会を提供できるようスタッフとともに委員会運営をしていきます。イノベーションは特別な人が実現できるものではなく、誰もが実現できると考えています。委員会メンバー一人ひとりの個性を活かし、常に意識変革の気持ちを持ち、主体的に行動することで沢山のイノベーションを起こし、組織により良い変化をもたらすと考えています。委員会メンバー全員が責任感と行動力を持ち、誰からも信頼される「人格者」になれるよう一年間全力で活動していきますのでよろしくお願い致します。



ワクワクする
まちづくり委員会
委員長 松宮 一貴

日々変化する困難な社会情勢のなかでも、我々ワクワクするまちづくり委員会は、乙訓地域を少しでも明るくするため、今まで以上に行政・市民・地域諸団体と乙訓青年会議所が連携し一年間活動してまいります。まずは委員会メンバーに楽しく活動してもらえるように委員会の雰囲気高め常に前を向き率先した行動をとります。委員会テーマとして全員が変人となり、一年後最後には家族となるために、自分たちの活動に誇りをもってもらいます。一つひとつの行動、言動に意味をもち、何事にも率先して行動してもらい、主体者意識を向上してもらうことでメンバー同士の絆を深め地域愛を育んでももらいます。

我々委員会が公益事業全て任して頂いた大役を全うし、今までと違う新しいまちづくりにチャレンジしてまいります。明るい乙訓を創造するべく一年間委員会メンバー一同全力で活動していきますので宜しくお願い致します。

12月卒業式・忘年会

2020年12月10日（木）ANAクラウンプラザホテル京都（平安の間）にて、公益社団法人乙訓青年会議所卒業式が行われました。40歳を迎えた1980年生まれの名がこの日、卒業されました。卒業式での卒業生登壇では卒業生一人ひとりの軌跡が映像で流れ、活動の懐かしみや雄姿を見ることができました。卒業生スピーチでは、卒業生がJC活動での思い出を振り返りながら、先輩や現役メンバーとの心に残るエピソードを熱く語られ、サプライズでのビデオメッセージでは、関わりのあるJC関係者の方々から、お祝いのメッセージも頂きました。送辞・答辞では代表者の想いを感じ、今後の飛躍に向けたエールを送ることができました。また、花束贈呈では、卒業生に縁のある現役メンバーより花束が渡され、熱い抱擁が交わされました。最後に卒業生を送り出す風景は感動的でした。卒業生の皆様にはコロナに負けることなく、より一層のご活躍を心よりお祈りいたします。

忘年会では、オープニング映像で2020年度のこれまでの事業を振り返り、本年度役員紹介、理事長挨拶では、達城理事長に一年間の感謝と次年度以降の運動に対する挨拶がありました。その後、本年度入会されました4名の新たな仲間の紹介、本年度の出向者の紹介があり、それぞれの代表者のスピーチで会場は温かくも達成感に包まれていました。2021年度役員紹介では、小西理事長予定者に、次年度も一丸となって取り組める姿勢と参加者との絆が深まるスピーチをして頂きました。最後に坂元専務理事の挨拶により、一本絞めを行い参加者全員の絆がより強固なものとなる忘年会になりました。



＜2020年度ご卒業生 6名＞

最後に、新型コロナウイルス感染防止対策にご協力くださいました多くの皆様に感謝申し上げます。



卒業生の皆様ご卒業おめでとうございます

12月例会

2020年12月10日（木）ANAクラウンプラザホテル京都（平安の間）にて、達城理事長が掲げられた「全員全力！～信じる心で誇りと未来を創造しよう～」のスローガンテーマのもと活動してきた一年間の集大成として12月例会が開催されました。褒章授与式では、2020年度に顕著な活動をされたメンバーへの表彰を行い、受賞者を祝いました。また、受賞者から喜びの一言を頂き、誇らしげな姿を見て、次年度の活動への活力になりました。委員長総括では各委員会が登壇し、委員長から一年間の活動の総括とともに委員会メンバー一人ひとりに労いの言葉をかけて頂きました。理事長総括では、達城理事長から全体の総括をして頂き、本年度を締めくくることができました。そして、理事長バッジ・直前理事長バッジの交換、ならびにプレジデンシャルリース伝達式を経て、次年度への引継が無事に行われたことで、新たな年に向けての第一歩を踏み出すことができました。

【特別功労賞】坂元 陸

【出向者特別賞】田中 望麻

【優秀会員賞】中野 翔太

【最優秀会員賞】富田 達也



1月例会

2021年1月6日（水）、乙訓の地でもある長岡京市の中央生涯学習センター3階メインホールにて、新型コロナウイルス感染防止対策を最優先とし、現地開催とWEB配信でのハイブリッド形式にて1月例会を開催致しました。二市一町の首長である安田守向日市長、中小路健吾長岡京市長、前川光大山崎町長、山城広域振興局中地則元副局長、スポンサーJCである公益社団法人京都青年会議所の石山理事長、また、近畿地区協議会会長の川谷会長から動画にて挨拶を頂きました。1月例会に、ご参加頂きました皆様にご理解を賜るべく第42代理事長・小西光より本年度のスローガン「Be the Change～その行動こそが未来を変える～」の定める一年間の運動の方向性をお話し頂きました。そして、乙訓青年会議所メンバーの意識を統一することにもつながり、組織が一丸となり活動していく気骨をもつことができました。

本年度は、乙訓青年会議所の直前理事長でもある達城英治を京都ブロック協議会会長に輩出させて頂いております。達城英治会長が、掲げるスローガン「強くあれ！！」と小西光理事長が掲げる「Be the Change～その行動こそが未来を変える～」の2つのスローガンが組織の両輪となるように活動してまいります。

最後になりましたが、新年のお忙しいなか、ご参集賜りました皆様には、心から感謝申し上げます。私たちは、昨年に学んだことを生かして青年会議所活動を止めず柔軟に対応してまいりますので、どうぞ一年間よろしくお願い申し上げます。



小西理事長企画 「目指せ！！ 未来のオリンピック！！」

小西理事長企画

『目指せ！！未来のオリンピック！！』

と、題しまして乙訓地域で活躍されている未来の子供達にスポットをあて、競技体験を通じて取材をしていきます。



第1回目は、乙訓青年会議所に所属されておられました石井佑典先輩が向日市で経営をされている「西の丘ローンテニスクラブ」に所属する、堀川いち乃さん取材させて頂きました。小西理事長は、取材をする前に「スポーツ体験を通じてテニスのことをもっと知りたい」とおっしゃられ、堀川いち乃さんとテニスラリーを体験されました。始めは、早い打球

なのでラケットにボールが当たらなかったのですが、徐々に打ち返せるようになり、最後には汗をかきながら「いい体験ができました！！」と感想を述べられました。

その後のインタビューでは、自己紹介として乙訓青年会議所がどのような活動をしているのかを、堀川いち乃さんに説明するところから始まりました。堀川いち乃さんは現在中学2年生（14歳）で、お母様やお兄様の影響を受けテニスを7歳から続けてこられ、始めた頃はテニスが好きではなかったそうです。しかし、少しずつ興味をもち、現在では全国ベスト4という素晴らしい実績をもつ選手に成長されました。そして、目標をプロテニスプレイヤーとし、海外留学も視野にいれ英会話の勉強をするとともに、肉体改造としてバランストレーニングや体幹トレーニングなどを始められ、夢を叶えるために意欲的に日々行動されています。1月末には、京都ウインスタージュニアテニス選手権に出場され、優勝を目指して日々練習に取り組まれています。



堀川いち乃さんが、14歳でもしっかりと夢に向かって行動されているのを目の当たりにし、私たち乙訓青年会議所メンバーも乙訓地域のために、さらなる発展に向けて行動してまいります。

最後に、乙訓青年会議所はこれからも堀川いち乃さんを応援していきます！！



乙訓から目指せ！！2024年パリ五輪へ！！



～2月例会～

2021年2月10日（水）、公益社団法人乙訓青年会議所2月例会が未来をつくる委員会のもと開催されました。本例会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Zoomを利用したWEB開催となりました。

この2月例会は、「メンバー全員が当事者意識をもち、組織の価値や楽しさを正しく理解し、主体的に会員拡大活動を行える人財へと成長して頂くこと」を目的として開催されました。

またJCでの学びをどのようにして社業に活かすことができるのかを、乙訓青年会議所の第27代理事長であります、株式会社Fujitaka代表取締役高井茂行氏にご講演を頂きました。当日は緊急事態宣言下のため、動画配信による講演のかたちとなりましたが、その後に質疑応答を行うことで、メンバーの深い理解へとつながりました。JC活動での学びや価値を正しく理解し、対外に正しくJCの魅力を発信する人財を育成することで、会員拡大を成功させ乙訓青年会議所の存続、発展につながる例会となりました。



【講演テーマ】
JCの魅力
自己と社業の成長へ

経営者になった時の驚い10ヶ条

1. 本業をつくらず時代と共に変化し続ける
2. 保守に走った時点で自ら経営者を降りる
3. 身の丈に合った経営を
4. 儲け至上主義ではなく、社員が誇れる社会貢献企業を目指す
5. 親父と同じ経営手法ではなく、自分が得意とする経営手法を
6. 本音で語り、本音で議論を行う
7. どんな困難な事が起きても笑顔で迎える
8. 決断は常に多くの情報を集めて自分で考え抜く
9. 迷ったらあえて道の道を選ぶ
10. トライ＆エラー 常に挑戦を



委員長趣旨説明

公益社団法人乙訓青年会議所
未来をつくる委員会 委員長
下戸 一晃



～3月例会～

2021年3月11日（木）乙訓青年会議所の3月例会は組織イノベーション委員会のもと、「積極的に自分で考え行動できる主体的な人財への成長につなげること」を目的として、ZoomにてWEB開催されました。第1部では、委員会発表で主体性のある人、ない人の特徴や共通点や主体性を高める方法を紹介します。

第2部では自責思考のワークショップとして、事前アンケートからJC活動における自責思考と他責思考を考え発表することで、自責思考の考え方により行動の選択が変わることを認識しました。そして第3部では、グループディスカッションにおいて他責思考のシチュエーションを自責思考に変え発表することで、自責思考に変わった行動が「率先力」につながることを学びました。

本例会を通して、個々の自立性を促す次の7月例会につなげるとともに、メンバーの成長意欲を掻き立て、率先力が育まれる学びの多い事業となりました。



委員会まとめ

公益社団法人乙訓青年会議所
組織イノベーション委員会 副委員長
西條 利洋



～ 3 L O M 交 流 会 ～

2021年3月13日（土）に3LOM合同交流会がグリーンランドみずほにて開催されました。3LOM合同交流会は、一般社団法人亀岡青年会議所、一般社団法人船井青年会議所、公益社団法人乙訓青年会議所の3つの青年会議所メンバー同士で、交流を深める事業です。



去年は残念ながら新型コロナウイルスの影響で中止となりましたが、今年度は「リアルキックボール盤」という個人の運動能力に偏らないオリジナルゲームを通じて参加者全員で楽しみながら、より一層近隣の青年会議所同士の交流を深めることができました。乙訓青年会議所から交流特別賞として、今年度入会者の仮屋藁毅君が選出されました。



～ 4 月 1 0 0 % 出 席 例 会 ～

2021年4月8日（木）19時より正副メンバーが担当する4月メモリアル100%出席例会を長岡京市中央生涯学習センター2F市民ギャラリーにて開催致しました。

本例会の冒頭で、創立当時の思いを中心としたお話を飛竹会山口勲会長よりして頂き、改めて身の引き締まる思いをさせていただきました。そして、「乙訓JC教育テレビ」と題した動画をメンバーで拝見しました。前編では、小西理事長、佐々木副理事長がコメンテーターとして誕生日や創立などの祝う意味合い、青年会議所の生存率、廃業率の説明をしました。中編では、岩本監事、藤田監事が乙訓青年会議所の先輩諸兄姉が引き継いでこられたことを伝えました。後編では、達城直前理事長、田中副理事長から社業、仕事において新人に歴史や伝統、知識を伝える意味合いや、現役メンバーがそれらを継承し、組織を発展させていくことの重要性を伝えました。



正副メンバーが中心となり設えた本例会では、乙訓青年会議所の軸となる部分を理解し再確認できた例会となりました。

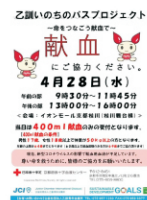


～乙訓いのちのパスプロジェクト～

2021年4月28日（水）イオンモール京都桂川にて「乙訓いのちのパスプロジェクト」が、日本赤十字社様ご協力のもと開催されました。京都府では4月25日（日）から緊急事態宣言が発令されましたが、献血は、不要不急な外出ではなく、コロナ禍でも安定的な輸血の確保が必要となります。緊急事態宣言中でしたが、乙訓青年会議所のメンバーも当日の呼び込みをし、メンバー自身や先輩諸兄姉の方々にもご協力を頂き、35名の方々にご協力して頂きました。今回、ご協力頂きました方々に感謝申し上げます。

私たち乙訓青年会議所は、献血活動を通して地域の皆様に輸血用血液不足の現状を少しでも認識し、人のために役立つ行動をして実感してもらう機会になったのではないかと考えます。

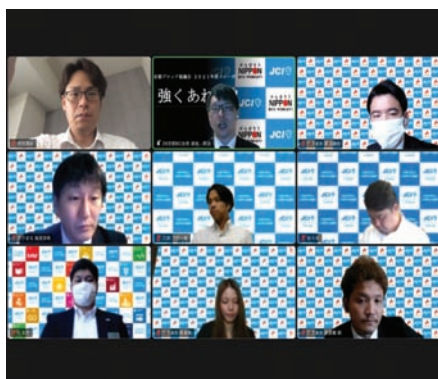
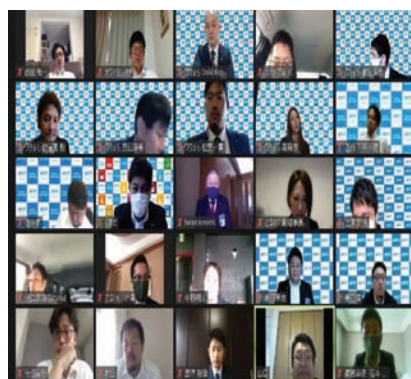
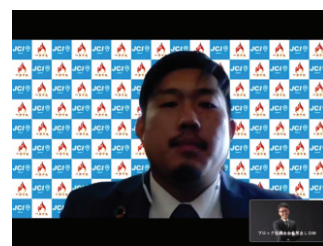
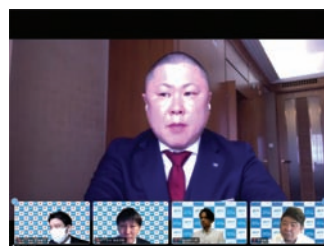
また、次回は8月にも開催予定を考えております。ぜひ、ご協力をよろしくお願いいたします。



～5月例会～

2021年5月16日（日）8時00分より、Zoomにて乙訓青年会議所5月例会がワクワクするまちづくり委員会のもと、「乙訓青年会議所の活動がより活性化することへとつなげること」を目的としてWEB開催致しました。

本例会では、出向でしか得られない経験が、活動意欲へとつながることや、乙訓青年会議所全体の活動が活性化することで得られる効果を説明させて頂きました。また、この後に開催される京都ブロック山城大会の見どころを説明し参加意欲の向上につなげました。ブロック大会と同日開催を行うことで、乙訓青年会議所メンバーの多くの参加につながりました。



～ 京都ブロック大会 山城大会 ～

2021年5月16日(日) 10時より、第49回京都ブロック大会(山城大会)の式典、フォーラムがWEBにて開催されました。乙訓青年会議所からは、副委員長として、松宮君、委員メンバーとして、小澤君、仮屋藺君、西條君、田中(炳)君、畠山君、樋口君、山中君が出向されています。

式典では、山城和太鼓 鼓絆様の演奏から始まり、京都ブロック協議会達城会長の挨拶では、AIの3Dホログラムの100年後の京都ブロック会長と対談され2021年度の京都ブロック協議会の1年間の方向性や運動を発信されました。また、主管LOMである山城青年会議所から乙訓青年会議所へ大会キーの移管が行われました。そして、褒章授与式では、福知山青年会議所の「福知山イル未来と2020」がグランプリ、特別賞をダブル受賞されました。フォーラムでは、日本電産株式会社代表取締役会長永守重信氏の講演をWEBにて視聴致しました。

2022年度第50回京都ブロック大会は、『乙訓の地』にて開催されますので皆様どうぞ宜しくお願い致します。



新入会員報告



乙訓拡大目標

目指せ30人!!

残りあと26人!!

メンバー一丸となって目標達成 に向かってがんばって 参ります!!

小西理事長企画 「目指せ!! 未来のオリンピック!!」

と、題しまして乙訓地域で活躍されている未来の子供にスポットをあて、競技体験を通じて取材をしていきます。

第2回目は、京都長岡京サッカースポーツ少年団の団長を勤められている大伴雅章様からご紹介頂き、去年卒団された牧野太河君を取材させて頂きました。小西理事長も、大山崎少年サッカークラブに入団し、小学校から高校1年生までサッカーをされていたので、取材の前にパス回しからリフティング、上原専務理事を交えてのボール回し（鳥かご）をして汗を流し「懐かしい、やっぱりサッカーは楽しいなあ」と感想を述べられました。

その後のインタビューでは、まず牧野太河君に乙訓青年会議所がどのような活動をしているのかを、説明するところから始まりました。牧野太河君は現在中学1年生（12歳）で、京都サンガF.C.ジュニアユースに所属しておられます。サッカーを始めたきっかけは、「キャプテン翼」の日向小次郎に憧れ、京都長岡京サッカースポーツ少年団に入団されました。低学年の時は今とポジションが違い、ディフェンスで得点に関われなかったのですが、小学校3年生から身長がぐんぐん伸びて、4年生からフォワードになり得点をとる選手に成長されました。4年生では青年会議所が主催しているJCカップに出場され、6年生ではJFA第44回全日本U-12サッカー選手権大会京都予選で優勝されました。

京都サンガF.C.ジュニアユースでは、現在コロナ禍の影響もあり週2回の練習ですが、練習がない時でも自主練習として家の前でランニングをしたり、ジムにも通いながら、1日5食のバランスを考えた食生活も実施され、体作りに取り組まれています。また、1日70分以上の勉強を課すことで、文武両道を実践されています。



将来の目標は、京都サンガF.C.に所属しJ1優勝に導きたいと考えておられます。そのために立命館宇治高等学校に入学し、京都サンガユースへの昇格を目指し日々練習に取り組まれています。最大のライバルは自分自身だと話されていたのが印象的でした。また憧れている選手は、39歳で現役のセリエA1部、ACミラン所属の、イブラヒモビッチ選手です。サッカースーパープレイ特集を見て、アクロバティックで誰も考えつかないようなプレーに憧れ、将来は自分自身もオリンピックに出場し活躍できるよう努力されています。

牧野太河君が、しっかりと目標に向かって努力しているのを目の当たりにし、私たち乙訓青年会議所メンバーも目標をもち日々努力することで、乙訓地域のさらなる発展に貢献できるよう行動してまいります。



乙訓から目指せ

2024年パリ五輪へ

- ◆理事長挨拶
- ◆2021年度委員長の意気込み
- ◆12月卒業式・忘年会報告
- ◆12月例会・1月例会
- ◆理事長企画
目指せ!!未来のオリンピア!!



～理事長挨拶～

新年おめでとうございます。平素は、公益社団法人乙訓青年会議所に格別なるご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。皆様におかれましては健やかに新しい年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

一昨年、私たちは創立40周年を迎え、昨年は、次の45周年へと向かい意気揚々とスタート致しましたが、新型コロナウイルスの影響もあり、なかなか、思うような活動ができない一年ではありました。しかし、そのような状況のもとでも、私たちは変化を受け入れ、新たな活動方法や新たな価値を模索し続け、今までとは違う新しい成果を実感することができました。なかでも二市一町の首長をはじめ、多くの地域諸団体の皆様や先輩諸兄姉の皆様には、変わらぬご理解と、私たちの運動・活動を支援頂いたことに対しまして、感謝申し上げます。

さて、私たち公益社団法人乙訓青年会議所は、「明るい豊かな社会」の実現に向けて、より良い乙訓（まち）となるよう日々運動を行っております。この乙訓（まち）は、心地よい自然に交通の利便性と、歴史遺産から育まれた高い文化性が調和したまちとして、人口も緩やかに増加し、発展を遂げてきました。しかし、将来的には、人口減少・超高齢社会の到来・加速する経済格差・多発する自然災害への不安など、この国が抱える課題に直面することが予想されております。また、2020年に世界規模で社会的・経済的、そして政治的危機を引き起こした新型コロナウイルス感染症を起因とするパンデミックは、これまでの習慣や社会常識を根本から見直すことを私たちに迫っています。今までの価値観が通用しない時代だからこそ、この困難な時期を乗り越えれば、人々は新しい考え方や生き方を実現できるのではないのでしょうか。そして、我々は、先輩諸兄姉より、この愛する乙訓（まち）の過去から未来に続く壮大な「まちづくり」という物語を託された主人公であります。たとえ今は苦しくとも自ら変化の起点となり、青年会議所の理想を胸に、時代の変化に負けない運動を展開し、乙訓（まち）からの負託と信頼を得る存在でなければなりません。変わりゆく時代のなかでも、希望をもって未来を描ける乙訓（まち）であり続けなければなりません。

本年度はスローガンに「Be the change」を掲げ、「～その行動こそが未来を変える～」をテーマに活動してまいります。「Be the change」には、不透明な社会情勢への不安と組織の危機を一人ひとりが意識を変えるチャンスとポジティブに捉え、圧倒的な主体者意識から生まれる行動力で乙訓（まち）の未来のために邁進しようとする想いが込められています。

42年目を迎える乙訓青年会議所の運動に、多くの市民、行政、地域諸団体、先輩諸兄姉の皆様の変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、本年が皆様にとりまして素晴らしい一年になることをご祈念申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

2021年度
公益社団法人乙訓青年会議所
第42代理事長 小西 光



～委員長の意気込み～



未来をつくる委員会
委員長 下戸 一晃

本年度乙訓青年会議所は、期首会員数が近年では最も少ない37人となります。未来をつくる委員会では、過去最高の入会目標人数を30人と掲げて、コロナウイルス蔓延の脅威をチャンスと捉え、新たな発想でWITHコロナを模索し、青年会議所の魅力を伝えることで、委員会の名の通り、青年会議所の未来を担う人財に一人でも多くご入会頂けるように、そのためには、委員会メンバーだけではなく乙訓青年会議所全メンバーや関係者様など多くの方の協力が必要となります。青年会議所活動に興味があられる方がおられましたら、遠慮なくおっしゃってください。ご説明にお伺いさせていただきます。

今後も地域に影響を与え続けられるように一年間取り組ませて頂きます。皆様どうぞ応援とご協力宜しくお願いします。



総務広報戦略委員会
委員長 佐伯 昌裕

本年度、総務広報戦略委員会では、委員会スローガンを「WAVE」とし、組織の中枢を担う責任と自覚をもち、一人ひとりが起こしたものが小さな行動（小さな波）でも、それが一つとなり大きな力（大きな波）へと変わることを示し、乙訓青年会議所の変化を牽引する委員会となるように委員会メンバー全員で取り組んでいきます。また、社会情勢が不安定ではありますが、各委員会の支えをし、より良い事業の構築につながるように精一杯に責務を果たしていきます。そして、広報におきましても、乙訓青年会議所の魅力や事業活動を一人でも多くの方に知って頂けるように、様々な手法を用いて発信していくことで、信頼や共感につなげていきたいと考えております。一年間、どうぞよろしくお願い致します。



組織イノベーション委員会
委員長 中野 翔太

2021年度組織イノベーション委員会は「流動性を高めよう」をテーマに一年間活動してまいります。時代の変化に対応し、リスクや失敗を恐れず、多様な人財や価値観を認め、JC活動だけでなく社業やプライベートにおいても新しいことにチャレンジして頂きたいと思えます。委員長としてまず、メンバーへの感謝の気持ちを忘れず、一人ひとりの成長を第一に考え、楽しく学びの機会を提供できるようスタッフとともに委員会運営をしていきます。イノベーションは特別な人が実現できるものではなく、誰もが実現できると考えています。委員会メンバー一人ひとりの個性を活かし、常に意識変革の気持ちを持ち、主体的に行動することで沢山のイノベーションを起こし、組織により良い変化をもたらすと考えています。委員会メンバー全員が責任感と行動力を持ち、誰からも信頼される「人格者」になれるよう一年間全力で活動していきますのでよろしくお願い致します。



ワクワクする
まちづくり委員会
委員長 松宮 一貴

日々変化する困難な社会情勢のなかでも、我々ワクワクするまちづくり委員会は、乙訓地域を少しでも明るくするため、今まで以上に行政・市民・地域諸団体と乙訓青年会議所が連携し一年間活動してまいります。まずは委員会メンバーに楽しく活動してもらえるように委員会の雰囲気を高め常に前を向き率先した行動をとります。委員会テーマとして全員が変人となり、一年後最後には家族となるために、自分たちの活動に誇りをもってもらいます。一つひとつの行動、言動に意味をもち、何事にも率先して行動してもらい、主体者意識を向上してもらうことでメンバー同士の絆を深め地域愛を育んでももらいます。

我々委員会が公益事業全て任して頂いた大役を全うし、今までと違う新しいまちづくりにチャレンジしてまいります。明るい乙訓を創造するべく一年間委員会メンバー一同全力で活動していきますので宜しくお願い致します。

12月卒業式・忘年会

2020年12月10日（木）ANAクラウンプラザホテル京都（平安の間）にて、公益社団法人乙訓青年会議所卒業式が行われました。40歳を迎えた1980年生まれの名がこの日、卒業されました。卒業式での卒業生登壇では卒業生一人ひとりの軌跡が映像で流れ、活動の懐かしみや雄姿を見ることができました。卒業生スピーチでは、卒業生がJC活動での思い出を振り返りながら、先輩や現役メンバーとの心に残るエピソードを熱く語られ、サプライズでのビデオメッセージでは、関わりのあるJC関係者の方々から、お祝いのメッセージも頂きました。送辞・答辞では代表者の想いを感じ、今後の飛躍に向けたエールを送ることができました。また、花束贈呈では、卒業生に縁のある現役メンバーより花束が渡され、熱い抱擁が交わされました。最後に卒業生を送り出す風景は感動的でした。卒業生の皆様にはコロナに負けることなく、より一層のご活躍を心よりお祈りいたします。

忘年会では、オープニング映像で2020年度のこれまでの事業を振り返り、本年度役員紹介、理事長挨拶では、達城理事長に一年間の感謝と次年度以降の運動に対する挨拶がありました。その後、本年度入会されました4名の新たな仲間の紹介、本年度の出向者の紹介があり、それぞれの代表者のスピーチで会場は温かくも達成感に包まれていました。2021年度役員

紹介では、小西理事長予定者に、次年度も一丸となって取り組める姿勢と参加者との絆が深まるスピーチをして頂きました。最後に坂元専務理事の挨拶により、一本絞めを行い参加者全員の絆がより強固なものとなる忘年会になりました。

最後に、新型コロナウイルス感染防止対策にご協力くださいました多くの皆様に感謝申し上げます。



＜2020年度ご卒業生 6名＞



卒業生の皆様ご卒業おめでとうございます

12月例会

2020年12月10日（木）ANAクラウンプラザホテル京都（平安の間）にて、達城理事長が掲げられた「全員全力！～信じる心で誇りと未来を創造しよう～」のスローガンテーマのもと活動してきた一年間の集大成として12月例会が開催されました。褒章授与式では、2020年度に顕著な活動をされたメンバーへの表彰を行い、受賞者を祝いました。また、受賞者から喜びの一言を頂き、誇らしげな姿を見て、次年度の活動への活力になりました。委員長総括では各委員会が登壇し、委員長から一年間の活動の総括とともに委員会メンバー一人ひとりに労いの言葉をかけて頂きました。理事長総括では、達城理事長から全体の総括をして頂き、本年度を締めくくることができました。そして、理事長バッジ・直前理事長バッジの交換、ならびにプレジデンシャルリース伝達式を経て、次年度への引継が無事に行われたことで、新たな年に向けての第一歩を踏み出すことができました。

【特別功労賞】坂元 陸

【出向者特別賞】田中 望麻

【優秀会員賞】中野 翔太

【最優秀会員賞】富田 達也



1月例会

2021年1月6日（水）、乙訓の地でもある長岡京市の中央生涯学習センター3階メインホールにて、新型コロナウイルス感染防止対策を最優先とし、現地開催とWEB配信でのハイブリッド形式にて1月例会を開催致しました。二市一町の首長である安田守向日市長、中小路健吾長岡京市長、前川光大山崎町長、山城広域振興局中地則元副局長、スポンサーJCである公益社団法人京都青年会議所の石山理事長、また、近畿地区協議会会長の川谷会長から動画にて挨拶を頂きました。1月例会に、ご参加頂きました皆様にご理解を賜るべく第42代理事長・小西光より本年度のスローガン「Be the Change～その行動こそが未来を変える～」の定める一年間の運動の方向性をお話し頂きました。そして、乙訓青年会議所メンバーの意識を統一することにもつながり、組織が一丸となり活動していく気骨をもつことができました。

本年度は、乙訓青年会議所の直前理事長でもある達城英治を京都ブロック協議会会長に輩出させて頂いております。達城英治会長が、掲げるスローガン「強くあれ！！」と小西光理事長が掲げる「Be the Change～その行動こそが未来を変える～」の2つのスローガンが組織の両輪となるように活動してまいります。

最後になりましたが、新年のお忙しいなか、ご参集賜りました皆様には、心から感謝申し上げます。私たちは、昨年に学んだことを生かして青年会議所活動を止めず柔軟に対応してまいりますので、どうぞ一年間よろしくお願い申し上げます。



小西理事長企画 「目指せ！！ 未来のオリンピック！！」

小西理事長企画

『目指せ！！未来のオリンピック！！』

と、題しまして乙訓地域で活躍されている未来の子供達にスポットをあて、競技体験を通じて取材をしていきます。



第1回目は、乙訓青年会議所に所属されておられました石井佑典先輩が向日市で経営をされている「西の丘ローンテニスクラブ」に所属する、堀川いち乃さん取材させて頂きました。小西理事長は、取材をする前に「スポーツ体験を通じてテニスのことをもっと知りたい」とおっしゃられ、堀川いち乃さんとテニスラリーを体験されました。始めは、早い打球

なのでラケットにボールが当たらなかったのですが、徐々に打ち返せるようになり、最後には汗をかきながら「いい体験ができました！！」と感想を述べられました。

その後のインタビューでは、自己紹介として乙訓青年会議所がどのような活動をしているのかを、堀川いち乃さんに説明するところから始まりました。堀川いち乃さんは現在中学2年生（14歳）で、お母様やお兄様の影響を受けテニスを7歳から続けてこられ、始めた頃はテニスがいまより好きではなかったそうです。しかし、少しずつ興味をもち、現在では全国ベスト4という素晴らしい実績をもつ選手に成長されました。そして、目標をプロテニスプレイヤーとし、海外留学も視野にいれ英会話の勉強をするとともに、肉体改造としてバランストレーニングや体幹トレーニングなどを始められ、夢を叶えるために意欲的に日々行動されています。1月末には、京都ウインスタージュニアテニス選手権に出場され、優勝を目指して日々練習に取り組まれています。



堀川いち乃さんが、14歳でもしっかりと夢に向かって行動されているのを目の当たりにし、私たち乙訓青年会議所メンバーも乙訓地域のために、さらなる発展に向けて行動してまいります。

最後に、乙訓青年会議所はこれからも堀川いち乃さんを応援していきます！！



乙訓から目指せ！！2024年パリ五輪へ！！



～2月例会～

2021年2月10日（水）、公益社団法人乙訓青年会議所2月例会が未来をつくる委員会のもと開催されました。本例会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Zoomを利用したWEB開催となりました。

この2月例会は、「メンバー全員が当事者意識をもち、組織の価値や楽しさを正しく理解し、主体的に会員拡大活動を行える人財へと成長して頂くこと」を目的として開催されました。

またJCでの学びをどのようにして社業に活かすことができるのかを、乙訓青年会議所の第27代理事長であります、株式会社Fujitaka代表取締役高井茂行氏にご講演を頂きました。当日は緊急事態宣言下のため、動画配信による講演のかたちとなりましたが、その後に質疑応答を行うことで、メンバーの深い理解へとつながりました。JC活動での学びや価値を正しく理解し、対外に正しくJCの魅力を発信する人財を育成することで、会員拡大を成功させ乙訓青年会議所の存続、発展につながる例会となりました。



【講演テーマ】
JCの魅力
自己と社業の成長へ

経営者になった時の驚い10ヶ条

1. 本業をつくらず時代と共に変化し続ける
2. 保守に走った時点で自ら経営者を降りる
3. 身の丈に合った経営を
4. 儲け至上主義ではなく、社員が誇れる社会貢献企業を目指す
5. 親父と同じ経営手法ではなく、自分が得意とする経営手法を
6. 本音で語り、本音で議論を行う
7. どんな困難な事が起きても笑顔で迎える
8. 決断は常に多くの情報を集めて自分で考え抜く
9. 迷ったらあえて道の道を選ぶ
10. トライ＆エラー 常に挑戦を



委員長趣旨説明

公益社団法人乙訓青年会議所
未来をつくる委員会 委員長
下戸 一晃



～3月例会～

2021年3月11日（木）乙訓青年会議所の3月例会は組織イノベーション委員会のもと、「積極的に自分で考え行動できる主体的な人財への成長につなげること」を目的として、ZoomにてWEB開催されました。第1部では、委員会発表で主体性のある人、ない人の特徴や共通点や主体性を高める方法を紹介します。

第2部では自責思考のワークショップとして、事前アンケートからJC活動における自責思考と他責思考を考え発表することで、自責思考の考え方により行動の選択が変わることを認識しました。そして第3部では、グループディスカッションにおいて他責思考のシチュエーションを自責思考に変え発表することで、自責思考に変わった行動が「率先力」につながることを学びました。

本例会を通して、個々の自立性を促す次の7月例会につなげるとともに、メンバーの成長意欲を掻き立て、率先力が育まれる学びの多い事業となりました。



委員会まとめ

公益社団法人乙訓青年会議所
組織イノベーション委員会 副委員長
西條 利洋



～ 3 L O M 交 流 会 ～

2021年3月13日（土）に3LOM合同交流会がグリーンランドみずほにて開催されました。3LOM合同交流会は、一般社団法人亀岡青年会議所、一般社団法人船井青年会議所、公益社団法人乙訓青年会議所の3つの青年会議所メンバー同士で、交流を深める事業です。



去年は残念ながら新型コロナウイルスの影響で中止となりましたが、今年度は「リアルキックボール盤」という個人の運動能力に偏らないオリジナルゲームを通じて参加者全員で楽しみながら、より一層近隣の青年会議所同士の交流を深めることができました。乙訓青年会議所から交流特別賞として、今年度入会者の仮屋藁毅君が選出されました。



～ 4 月 1 0 0 % 出 席 例 会 ～

2021年4月8日（木）19時より正副メンバーが担当する4月メモリアル100%出席例会を長岡京市中央生涯学習センター2F市民ギャラリーにて開催致しました。

本例会の冒頭で、創立当時の思いを中心としたお話を飛竹会山口勲会長よりして頂き、改めて身の引き締まる思いをさせていただきました。そして、「乙訓JC教育テレビ」と題した動画をメンバーで拝見しました。前編では、小西理事長、佐々木副理事長がコメンテーターとして誕生日や創立などの祝う意味合い、青年会議所の生存率、廃業率の説明をしました。中編では、岩本監事、藤田監事が乙訓青年会議所の先輩諸兄姉が引き継いでこられたことを伝えました。後編では、達城直前理事長、田中副理事長から社業、仕事において新人に歴史や伝統、知識を伝える意味合いや、現役メンバーがそれらを継承し、組織を発展させていくことの重要性を伝えました。



正副メンバーが中心となり設えた本例会では、乙訓青年会議所の軸となる部分を理解し再確認できた例会となりました。

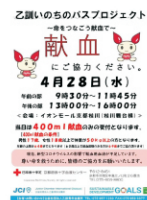


～乙訓いのちのパスプロジェクト～

2021年4月28日（水）イオンモール京都桂川にて「乙訓いのちのパスプロジェクト」が、日本赤十字社様ご協力のもと開催されました。京都府では4月25日（日）から緊急事態宣言が発令されましたが、献血は、不要不急な外出ではなく、コロナ禍でも安定的な輸血の確保が必要となります。緊急事態宣言中でしたが、乙訓青年会議所のメンバーも当日の呼び込みをし、メンバー自身や先輩諸兄姉の方々にもご協力を頂き、35名の方々にご協力して頂きました。今回、ご協力頂きました方々に感謝申し上げます。

私たち乙訓青年会議所は、献血活動を通して地域の皆様に輸血用血液不足の現状を少しでも認識し、人のために役立つ行動をして実感してもらう機会になったのではないかと考えます。

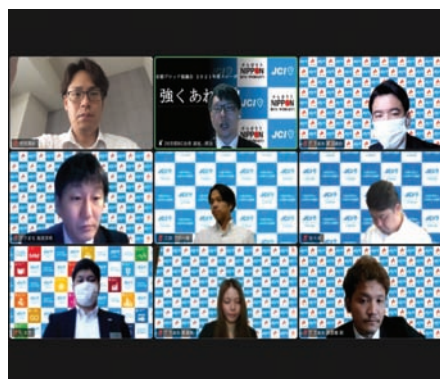
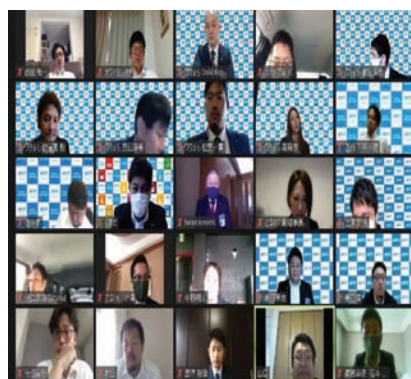
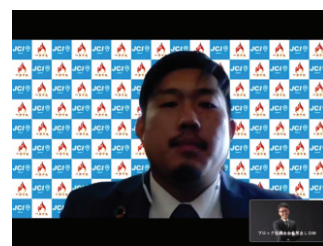
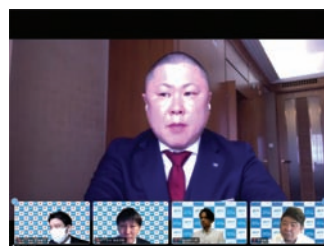
また、次回は8月にも開催予定を考えております。ぜひ、ご協力をよろしくお願いいたします。



～5月例会～

2021年5月16日（日）8時00分より、Zoomにて乙訓青年会議所5月例会がワクワクするまちづくり委員会のもと、「乙訓青年会議所の活動がより活性化することへとつなげること」を目的としてWEB開催致しました。

本例会では、出向でしか得られない経験が、活動意欲へとつながることや、乙訓青年会議所全体の活動が活性化することで得られる効果を説明させて頂きました。また、この後に開催される京都ブロック山城大会の見どころを説明し参加意欲の向上につなげました。ブロック大会と同日開催を行うことで、乙訓青年会議所メンバーの多くの参加につながりました。



～ 京都ブロック大会 山城大会 ～

2021年5月16日（日）10時より、第49回京都ブロック大会（山城大会）の式典、フォーラムがWEBにて開催されました。乙訓青年会議所からは、副委員長として、松宮君、委員メンバーとして、小澤君、仮屋藺君、西條君、田中（炳）君、畠山君、樋口君、山中君が出向されています。

式典では、山城和太鼓 鼓絆様の演奏から始まり、京都ブロック協議会達城会長の挨拶では、AIの3Dホログラムの100年後の京都ブロック会長と対談され2021年度の京都ブロック協議会の1年間の方向性や運動を発信されました。また、主管LOMである山城青年会議所から乙訓青年会議所へ大会キーの移管が行われました。そして、褒章授与式では、福知山青年会議所の「福知山イル未来と2020」がグランプリ、特別賞をダブル受賞されました。フォーラムでは、日本電産株式会社代表取締役会長永守重信氏の講演をWEBにて視聴致しました。

2022年度第50回京都ブロック大会は、『乙訓の地』にて開催されますので皆様どうぞ宜しくお願い致します。



新入会員報告



乙訓拡大目標

目指せ30人!!

残りあと26人!!

メンバー一丸となって目標達成 に向かってがんばって 参ります!!

小西理事長企画 「目指せ!! 未来のオリンピック!!」

と、題しまして乙訓地域で活躍されている未来の子供にスポットをあて、競技体験を通じて取材をしていきます。

第2回目は、京都長岡京サッカースポーツ少年団の団長を勤められている大伴雅章様からご紹介頂き、去年卒団された牧野太河君を取材させて頂きました。小西理事長も、大山崎少年サッカークラブに入団し、小学校から高校1年生までサッカーをされていたので、取材の前にパス回しからリフティング、上原専務理事を交えてのボール回し（鳥かご）をして汗を流し「懐かしい、やっぱりサッカーは楽しいなあ」と感想を述べられました。

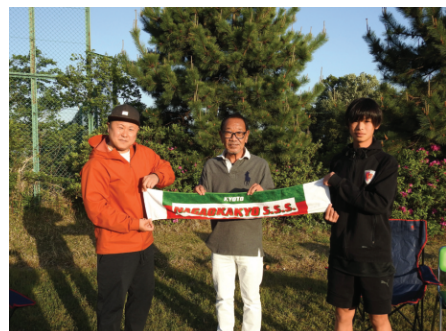
その後のインタビューでは、まず牧野太河君に乙訓青年会議所がどのような活動をしているのかを、説明するところから始まりました。牧野太河君は現在中学1年生（12歳）で、京都サンガF.C.ジュニアユースに所属しておられます。サッカーを始めたきっかけは、「キャプテン翼」の日向小次郎に憧れ、京都長岡京サッカースポーツ少年団に入団されました。低学年の時は今とポジションが違い、ディフェンスで得点に関われなかったのですが、小学校3年生から身長がぐんぐん伸びて、4年生からフォワードになり得点をとる選手に成長されました。4年生では青年会議所が主催しているJCカップに出場され、6年生ではJFA第44回全日本U-12サッカー選手権大会京都予選で優勝されました。

京都サンガF.C.ジュニアユースでは、現在コロナ禍の影響もあり週2回の練習ですが、練習がない時でも自主練習として家の前でランニングをしたり、ジムにも通いながら、1日5食のバランスを考えた食生活も実施され、体作りに取り組まれています。また、1日70分以上の勉強を課すことで、文武両道を実践されています。



将来の目標は、京都サンガF.C.に所属しJ1優勝に導きたいと考えておられます。そのために立命館宇治高等学校に入学し、京都サンガユースへの昇格を目指し日々練習に取り組まれています。最大のライバルは自分自身だと話されていたのが印象的でした。また憧れている選手は、39歳で現役のセリエA1部、ACミラン所属の、イブラヒモビッチ選手です。サッカースーパープレイ特集を見て、アクロバティックで誰も考えつかないようなプレーに憧れ、将来は自分自身もオリンピックに出場し活躍できるよう努力されています。

牧野太河君が、しっかりと目標に向かって努力しているのを目の当たりにし、私たち乙訓青年会議所メンバーも目標をもち日々努力することで、乙訓地域のさらなる発展に貢献できるよう行動してまいります。



乙訓から目指せ

2024年パリ五輪へ

- ◆7月例会
- ◆サマーコンファレンス・決起大会
- ◆8月例会
- ◆9月例会・乙訓DREAMフェスタ
- ◆乙訓いのちのパスプロジェクト
- ◆10月例会
- ◆11月例会・FTセミナー
- ◆目指せ未来のオリンピック!!
- ◆会員拡大報告

乙訓ホームページ 乙訓Instagram 乙訓フェイスブック



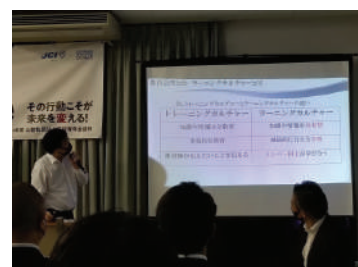
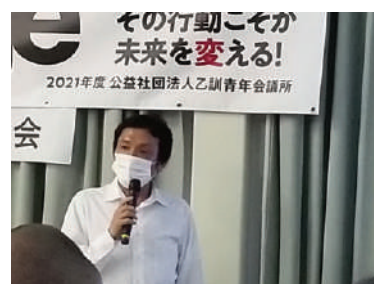
～7月例会～

7月8日（木）18時30分より、株式会社LIV SUBACO
グラウンド2階教室にて乙訓青年会議所7月例会を開催致しました。

7月例会では、講師に志水克行氏をお招きし講演頂きました。相手を理解し、信頼関係を構築するには「共感による傾聴」が重要であり、より効果的に相手に共感する手法である「エゴグラム分析」を通じて、信頼できる関係性が構築できることを知って頂きました。

また、メンバー同士で知識や情報を共有しお互いに学び合い、「ラーニングカルチャー」を組織に根付かせることで、組織の相乗効果を生み出す関係性の構築が生み出されることを理解して頂きました。そして、主体的な人財が、組織の理念に基づき自律的に行動し、相乗効果を生み出す関係性が構築されることで、「個々が自律的に行動できる組織」へ進化する一歩へと近づいた例会となりました。

また、本例会には、お忙しいなか3名の入会候補者にご参加頂きました。



～サマーコンファレンス 決起大会～

7月17日～18日にパシフィコ横浜にて、サマーコンファレンス2021が開催されました。今年はコロナウイルス感染拡大防止の観点から、現地とWEBによるハイブリット形式にて、開催されました。

17日11時からLOM財産共有委員会より議案構築のためのワンインパクトセミナーと全国のLOMの議案を確認できるシステム、「gian pocket」に関する説明が行われました。また、LOM財産共有委員会には乙訓青年会議所から谷政憲君が会計幹事として出向されています。

そして、7月24日（土）には乙訓の地にて、次年度理事長予定者の発表が行われました。次年度理事長予定者である田中望麻理事長予定者から、2022年度に向けた熱い思いをメンバーに伝えて頂きました。また、メンバーの結束力を高めて頂くとともに2022年度に向けての方向性をお話しして頂きました。

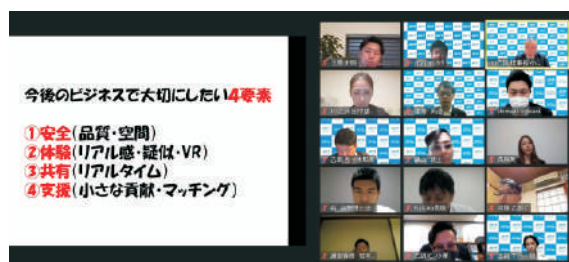
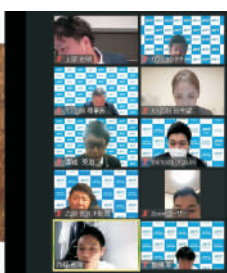
そして、2022年度に開催される乙訓青年会議所主管のブロック大会に向けても弾みをつけることができました。



～ 8 月 例 会 ～

8月12日(木)18時30分よりWEBにて8月例会を開催いたしました。

8月例会では、事前に各委員会で行って頂きました『No Limit Actionプログラム(事前調査)』を通して、後半の活動に対する意識を高めるとともに、後半の活動へ向けて英気を養い、絆を強固にすることを目的に開催をさせて頂きました。事前に各委員会では考え、びわ湖バレイ、ラフィティング、ラウンドワンなど色々な場所に行き、『No Limit Actionプログラム(事前調査)』を通して、後半の活動に対する意識を高めて頂きました。また、8月例会当日には、後半の活動へ向けて絆の強固や創造力を高め『No Limit Advanceプログラム』にて各委員会に発表を行って頂きました。そして、8月例会では乙訓青年会議所2022年度の理事選挙の発表が行われました。



～ 乙 訓 い の ち の パ ス プ ロ ジ ェ ク ト ～

9月28日(火)JR長岡京駅ロータリー(バンビオ側歩道内)にて、『乙訓いのちのパスプロジェクト』が、日本赤十字社様のご協力のもと開催されました。京都府では、緊急事態宣言が発令されましたが、献血は、不要不急の外出ではなく、コロナ禍でも安定的な輸血確保が必要となります。緊急事態宣言中でしたが、乙訓青年会議所のメンバーも当日の呼び込みをし、メンバー自身や、お友達、先輩諸兄姉の方々にもご協力頂き、30名の方々にご協力して頂きました。今回、ご協力頂きました方々に感謝申し上げます。

私たち乙訓青年会議所は、献血活動を通して地域の皆様に輸血用血液不足の現状を少しでも認識し、人のために役立行動をしてもらう機会になったのではないかと考えます。

また、次回の課題として、たくさんの方々に認識してもらえるようにこれからもメンバーが率先して声を上げ、次回以降につなげていきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。



～9月例会 乙訓DREAM フェスタ～

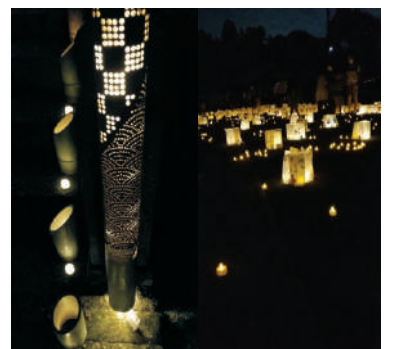
9月25日（土）15時より、WEBにて9月例会を開催致しました。

9月例会では、後の乙訓DREAMフェスタに向けメンバーが一丸となり主体者意識を高めて頂くことを目的として開催致しました。そして、新入会員入会式を行い、新しいメンバーとして、榎本直人君、松田亜友未君、山田英孝君の3名が入会しました。

そして、例会後の18時より、「乙訓DREAMフェスタ～祈望～」を開催させて頂きました。「竹灯りが足元を照らし、花火が乙訓を照らした」乙訓DREAMフェスタは、乙訓地域の各団体との連携のもと、まちづくり事業として地域の皆様と直接関わりをもつ乙訓地域最大級のイベントとして毎年開催させて頂いています。昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため乙訓DREAMフェスタではなく、「乙訓DREAMフラッグプロジェクト」として開催し、乙訓JCチャンネル（YouTube）にて動画配信などを行いました。2019年に行われた「乙訓DREAMフェスタ」はメディアにもトップニュースに大きく取り上げられるなど、年々認知を拡大している活動となっています。今年の会場は、あじさいや紅葉の名所としても有名な柳谷観音楊谷寺で開催させて頂きました。近年では手水鉢に花が浮かぶ姿がSNSでも「映えスポット」として大きな話題となっている場所でもあります。

また、今年は先立って9月20日から25日の6日間にて、竹灯籠・紙灯籠・竹アートイルミを境内のなかに配置し、夕暮れからライトアップを行い、柳谷観音楊谷寺を竹から発する優しい灯りで包み込みました。暗闇のなか、竹灯りのみを頼りに風情を楽しみながら進んでいき、多くの方々に極上の異世界へといざない、魅了されている様子が老若男女問わず見られました。

最終日は、「乙訓DREAMフェスタ～祈望～」のフィナーレとして夜空に乙訓地域からコロナ終息の願いが込められた花火が打ち上げられ、今年は静寂さと華やかさを感じさせる乙訓DREAMフェスタとなりました。ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。



～10月例会～

10月14日(木)19時より株式会社LIV SUBACOグランド2階教室にて乙訓青年会議所10月例会を開催致しました。

委員会発表と致しまして出向先の組織図を用いて日本青年会議所、近畿地区協議会、京都ブロック協議会の組織について説明し、その後に出向経験者発表として第1部では、「出向の経験を次年度以降につなぐ」をテーマに松宮一貴君、姜星輝君に発表して頂きました。松宮一貴君は京都ブロック協議会のブロック大会の副委員長として出向され人と地域のつながりを考え、新たな発想や想像につながった経験をお話しされました。その経験を生かして次年度には、12年度に一度しか回ってこないブロック大会乙訓開催の委員長として出向されます。今年の経験を生かしてブロック大会乙訓開催を成功裏に導いて頂けるような、お話しをして頂きました。

また、姜星輝君は、近畿地区協議会、地域モデル確立委員会、副委員長として出向され、LOMと出向先の違いをお話して頂き、出向での様々な学びや出向での経験を通して成長し、出向で学ばれたことを乙訓青年会議所のメンバーにも取り入れたいと考えるようになったことや、取り組む姿勢が変わりJC活動にさらに前向になったことをお話して頂きました。出向先での学びを今後取り入れることで、LOMの活性化につがることをお話して頂きました。

そして、第2部では、嶋田剛士君に、「出向の楽しさは、積極的に参画し経験してみないとわからない」をテーマとしてお話して頂きました。嶋田剛士君は日本青年会議所の地域グループに属しているTOYP委員会の委員として出向されています。日本青年会議所には30もの委員会がありスケールメリットが大きい事業ができます。出向することで、積極的に参画する重要性、参画するからこそ多くの学びや日本全国各地のJCメンバーとの出会いや、経験が得られるということをお話しして頂きました。また、楽しさがあるからこそ苦しいときでも事業に参画することでさらなる楽しさが生まれるということをお話しして頂きました。

10月例会を通じて、出向の意味合いを理解し、京都ブロック協議会の最後の事業として行われた「本次年度・委員会報告The Final Stage 2021」の参加意欲の向上につながったともに、10月例会を通して、次年度以降の出向意欲の向上につながる例会となりました。



～ 11月例会～

11月12日(金)12時30分より株式会社LIV SUBACOグラウンド2階教室にて乙訓青年会議所11月例会・FTセミナーを開催致しました。

11月例会では、後に行われるFTセミナーの重要性を理解して頂くことを目的とし、11月例会を開催致しました。そして、後に行われたFTセミナーでは、新しい同志をまちの未来を担うリーダーへと育む機会とし、FTメンバーが主体的に活動するメンバーへと成長することを目的とし、FTセミナーを開催させて頂きました。

FTセミナーでは、講師としてトレーナーである沼田宏之氏をお招きし、JCゲームを体験し、JC活動を疑似体験することができ、事業の意味合いについて考えることができました。FTメンバーは、2つのグループに別れて事業計画書の作成に取り組み、模擬上程から模試理事会を経験させて頂きました。さらに、パワーポイントを用いて事業計画の発表も行って頂きました。最後には、FTメンバー全員に、FTセミナーを通しての3分間スピーチして頂きました。これからのJC活動に向けてとても思い出に残る事業となりました。



新入会員報告



10人目

11人目

12人目

乙訓拡大目標目指せ30人!!メンバー一丸

となって目標達成に向けてがんばって参ります!!

小西理事長企画 目指せ！！ 未来のオリンピック

『目指せ！！未来のオリンピック』と題しまして乙訓地域で活躍されている未来の子供達にスポットをあて、競技体験を通じて取材をしてきました。

第3回目は、長岡スイミングスクールの選手育成コースに所属する、小山明咲さんに取材をさせて頂きました。小西理事長も小学校6年生迄は、長岡スイミングスクールに通われておられ昔のことを思い出すと言われていました。

インタビューでは、乙訓青年会議所を説明するところから始まりました。小山明咲さんは、現在中学3年生で3歳の頃から長岡スイミングスクールに通い、小学校2年生の時に現在のコーチから誘われ、選手育成コースに所属されました。最初の頃は、選手育成コースの練習が厳しく嫌だったとお話されていましたが、徐々に水泳の楽しさを感じていき、中学校の部活でも水泳部に所属され、長岡スイミングスクールにも週5日の練習をしてこられました。その結果、去年の冬には京都の強化合宿選手に選ばれ、今年の府下大会では3位に入賞され、近畿大会にも出場されるなど素晴らしい実績をもつ選出へと成長されました。また、小山明咲さんと同じ長岡スイミングスクールに通われていた先輩に中学2年生の時に初めて50Mバタフライで勝利した時はとても嬉しかったと笑顔でお話しをされておられました。

今後は高校に進学し、インターハイに出場することが今の目標であると言っておられました。そして、現在は高校入試に向けて勉強も頑張っておられます。また、長岡スイミングスクールのコーチにはとてもお世話になったようで、将来は選手をサポートできるようなコーチを目指しているとお話しされていました。

取材後には、小西理事長と小山明咲さんで水泳対決を行いました。小山明咲さんが圧勝でした。小西理事長は、「久しぶりの水泳で懐かしかった」「楽しく水泳ができた」と感想を述べられていました。

小山明咲さんが目標に向かって努力され行動されているのを目の当たりにし、私たち乙訓青年会議所メンバーも目標を持ち日々努力することで、乙訓地域のさらなる発展に貢献できるように行動してまいります。



乙訓から目指せ

2024年パリ五輪へ